

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5313716号
(P5313716)

(45) 発行日 平成25年10月9日 (2013. 10. 9)

(24) 登録日 平成25年7月12日 (2013. 7. 12)

(51) Int. Cl.		F 1	
B 6 5 D	5/66	(2006. 01)	B 6 5 D 5/66 3 3 1 A
G 0 9 F	3/03	(2006. 01)	G 0 9 F 3/03 A
G 0 9 F	3/02	(2006. 01)	G 0 9 F 3/02 P

請求項の数 2 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2009-28873 (P2009-28873)	(73) 特許権者	000110217
(22) 出願日	平成21年2月10日 (2009. 2. 10)		トッパン・フォームズ株式会社
(65) 公開番号	特開2010-184718 (P2010-184718A)		東京都港区東新橋一丁目7番3号
(43) 公開日	平成22年8月26日 (2010. 8. 26)	(74) 代理人	100123788
審査請求日	平成23年11月17日 (2011. 11. 17)		弁理士 宮崎 昭夫
		(74) 代理人	100106138
			弁理士 石橋 政幸
		(74) 代理人	100127454
			弁理士 緒方 雅昭
		(72) 発明者	重見 一臣
			東京都港区東新橋一丁目7番3号 トッパ ン・フォームズ株式会社内
		審査官	会田 博行
最終頁に続く			

(54) 【発明の名称】 ラベルユニット

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

剥離台紙と、

長辺の長さが第1の長さとなる帯状形状を具備し、前記剥離台紙に剥離可能に貼着された第1のラベル部と、

長辺の長さが前記第1の長さの半分の長さとなる帯状形状を具備し、前記第1のラベル部に並行し、かつ長辺方向に互いに直列に並ぶように短辺が当接して前記剥離台紙に剥離可能に貼着された2つの第2のラベル部とを有するラベルユニット。

【請求項 2】

請求項1に記載のラベルユニットにおいて、

前記第1のラベル部及び前記2つの第2のラベル部は、前記剥離台紙の表裏にそれぞれ剥離可能に貼着されているラベルユニット。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、段ボール等の箱状物を封緘するためのラベルユニットに関する。

【背景技術】

【0002】

従来より、衣料品や食料品、あるいはその他小物等の物品を送付する場合、これらの物品を段ボールに封入して発送することが行われている。このように段ボールを用いた場合

、1つの送付先に複数の物品をまとめて送付したり、物品に手紙等を同封して送付先に送付したりすることができるため、物品を送付する利用者は、そのほとんどが段ボールを利用して物品を送付している。また、引越し等の際においても、段ボールは、衣料品や小物家具等を複数まとめて封入することができるため、必ず利用されていると言ってもよい。

【0003】

このように段ボールに物品を封入する場合、物品を封入した後、送付途中あるいは搬送途中において、封入した物品が段ボールから脱落してしまうことを回避するために粘着テープによって段ボールが封緘されている。一般に、段ボールを封緘する場合、段ボールに物品を封入した後、段ボールのフラップ部を折り畳み、この2つのフラップ部の先端辺に沿って、2つのフラップ部の先端辺及び段ボールの側板に跨って粘着テープが貼着される。さらに、上記のように貼着されたフラップ部の側辺に沿って、フラップ部の側辺と段ボールの側面とに跨って粘着テープを貼着することにより、封緘状態を補強することができる。この際、利用者は、ロール状に巻き取られてなる粘着テープをフラップ部の先端辺や段ボールの側面の一辺の長さに応じてカットして使用している。そのため、粘着テープをはさみ等でカットする場合は、はさみ等の切断手段が必要となり、また、手でカットする場合は、カット面がきたなくなり外観が悪くなってしまう。

10

【0004】

ここで、段ボールに貼り付けるための連続状のテープをその貼着部分の長さに応じて切断する装置が考えられている（例えば、特許文献1，2参照。）。このような装置を用いれば、ロール状に巻き取られてなる粘着テープを、フラップ部の先端辺や段ボールの側面の一辺の長さに応じて、はさみ等の切断手段を用いることなく、かつ外観がきれいになるようにカットすることができるようになる。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開2006-62113号公報

【特許文献2】特開2006-62777号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

上述したように粘着テープを用いて段ボールを封緘する作業は、物品を送付する場合も引越し等の場合も、一般消費者が行うことが多い。そのため、上述したような装置を用いて連続状の粘着テープを所望の長さにはカットすることは難しく、結局、上記同様に、連続状の粘着テープを、段ボールを構成するフラップ部の先端辺や対向側面の一辺の長さに応じてカットすることとなり、はさみ等の切断手段が必要となったり、外観が悪くなってしまうという問題点がある。

30

【0007】

本発明は、上述したような従来の技術が有する問題点に鑑みてなされたものであって、切断手段を用いることなく、かつ外観が悪くなることなく箱状物を封緘することができるラベルユニットを提供することを目的とする。

40

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記目的を達成するために本発明は、

剥離台紙と、

長辺の長さが第1の長さとなる帯状形状を具備し、前記剥離台紙に剥離可能に貼着された第1のラベル部と、

長辺の長さが前記第1の長さの半分の長さとなる帯状形状を具備し、前記第1のラベル部に並行し、かつ長辺方向に互いに直列に並ぶように短辺が当接して前記剥離台紙に剥離可能に貼着された2つの第2のラベル部とを有する。

【0011】

50

上記のように構成された本発明においては、2組の対向側板と、2組の対向側板の下縁に接続した底板と、2組の対向側板のうち一方の組の対向側板の上縁にて折り畳み可能に接続した2つの内フラップ部と、2組の対向側板のうち他方の組の対向側板の上縁にて折り畳み可能に接続し、対向側板の上縁にて折り畳まれた場合に先端辺が互いに突き合う2つの外フラップ部とを有し、内フラップ部が対向側板の上縁にて折り畳まれた後、外フラップ部が対向側板の上縁にて折り畳まれて先端辺どうしが突き合わされた状態で封緘される箱状物であって、内フラップ部に接続した対向側板の上縁の長さが第2のラベル部の長さと同じであり、かつ、内フラップ部に接続した対向側板の上縁の2倍の長さが外フラップ部の先端辺よりも長いものとなる箱状物を封緘するために用いることができる。この場合、まず、第1のラベル部を剥離台紙から剥離し、突き合わされた2つの外フラップ部の先端辺に沿うように2つの外フラップ部に跨って第1のラベル部を貼着する。第1のラベル部は、外フラップ部の先端辺よりも長い長さを具備するため、2つの外フラップ部の先端辺に沿うように2つの外フラップ部に跨って貼着すると、第1のラベル部は、2つの外フラップ部の先端辺と内フラップ部に接続した対向側板とに跨って貼着される。その後、第2のラベル部を剥離台紙から剥離し、第1のラベル部が貼着された2つの外フラップ部の側辺に沿って、2つの外フラップ部と内フラップ部に接続した対向側板とに跨って第2のラベル部を貼着する。第2のラベル部は、内フラップ部に接続した対向側板の上縁と同じ長さを具備するため、外フラップ部と内フラップ部に接続した対向側板とを、内フラップ部に接続した対向側板の上縁に沿う領域の全面に渡って、第2のラベル部の端部を折り曲げたり切断したりすることなく、それぞれ1枚の第2のラベル部によって貼着することができる。また、第1のラベル部と第2のラベル部とが剥離台紙に貼着された状態においては、第2のラベル部が、第1のラベル部に並行し、かつ長辺方向に互いに直列に並ぶように短辺が当接して剥離台紙に貼着されているので、外観において煩雑な印象を与えることがなく、また、剥離台紙が小型化される。

【0012】

また、第1のラベル部及び2つの第2のラベル部が、剥離台紙の表裏にそれぞれ剥離可能に貼着されていれば、封緘する箱状物の底板が、上面側と同様に内フラップ部と外フラップ部とから構成されている場合、上面側及び底板側の封緘を1つのラベルユニットで行うことができる。

【発明の効果】

【0013】

以上説明したように本発明においては、2組の対向側板と、2組の対向側板の下縁に接続した底板と、2組の対向側板のうち一方の組の対向側板の上縁にて折り畳み可能に接続した2つの内フラップ部と、2組の対向側板のうち他方の組の対向側板の上縁にて折り畳み可能に接続し、対向側板の上縁にて折り畳まれた場合に先端辺が互いに突き合う2つの外フラップ部とを有し、内フラップ部が対向側板の上縁にて折り畳まれた後、外フラップ部が対向側板の上縁にて折り畳まれて先端辺どうしが突き合わされた状態で封緘される箱状物を封緘するためのものであって、外フラップ部の先端辺よりも長い長さを具備し、突き合わされた2つの外フラップ部の先端辺に沿って、2つの外フラップ部と内フラップ部に接続した対向側板とに跨って貼着される第1のラベル部と、内フラップ部に接続した対向側板の上縁と同じ長さを具備し、第1のラベル部が貼着された2つの外フラップ部の側辺に沿って、2つの外フラップ部と内フラップ部に接続した対向側板とに跨ってそれぞれ貼着される2つの第2のラベル部と、第1のラベル部と2つの第2のラベル部とが剥離可能に貼着された剥離台紙とを有する構成としたため、上述したような構成の箱状物を封緘する場合、第1のラベル部を剥離台紙から剥離し、突き合わされた外フラップ部の先端辺に沿って、2つの外フラップ部と内フラップ部に接続した対向側板とに跨って第1のラベル部を貼着し、その後、第2のラベル部を剥離台紙から剥離し、第1のラベル部が貼着された2つの外フラップ部の側辺に沿って、2つの外フラップ部と内フラップ部に接続した対向側板とに跨って2つの第2のラベル部をそれぞれ貼着することにより箱状物を封緘することができ、それにより、切断手段を用いることなく、かつ外観が悪くなることなく箱

状物を封緘することができる。

【0014】

また、剥離台紙と、長辺の長さが第1の長さとなる帯状形状を具備し、剥離台紙に剥離可能に貼着された第1のラベル部と、長辺の長さが前記第1の長さの半分の長さとなる帯状形状を具備し、第1のラベル部に並行し、かつ長辺方向に互いに直列に並ぶように短辺が当接して剥離台紙に剥離可能に貼着された2つの第2のラベル部とを有する構成としたものにおいては、2組の対向側板と、2組の対向側板の下縁に接続した底板と、2組の対向側板のうち一方の組の対向側板の上縁にて折り畳み可能に接続した2つの内フラップ部と、2組の対向側板のうち他方の組の対向側板の上縁にて折り畳み可能に接続し、対向側板の上縁にて折り畳まれた場合に先端辺が互いに突き合う2つの外フラップ部とを有し、内フラップ部が対向側板の上縁にて折り畳まれた後、外フラップ部が対向側板の上縁にて折り畳まれて先端辺どうしが突き合わされた状態で封緘される箱状物であって、内フラップ部に接続した対向側板の上縁の長さが第2のラベル部の長さと同じであり、かつ、内フラップ部に接続した対向側板の上縁の2倍の長さが外フラップ部の先端辺よりも長いものとなる箱状物に対して、第1のラベル部を剥離台紙から剥離し、突き合わされた2つの外フラップ部の先端辺に沿って、2つの外フラップ部と内フラップ部に接続した対向側板とに跨って第1のラベル部を貼着し、その後、第2のラベル部を剥離台紙から剥離し、第1のラベル部が貼着された2つの外フラップ部の側辺に沿って、2つの外フラップ部と内フラップ部に接続した対向側板とに跨って2つの第2のラベル部をそれぞれ貼着することによりその箱状物を封緘することができ、それにより、切断手段を用いることなく、かつ外観が悪くなることなく箱状物を封緘することができる。また、第1のラベル部と第2のラベル部とが剥離台紙に貼着された状態においては、第2のラベルが、第1のラベル部に並行し、かつ長辺方向に互いに直列に並ぶように短辺が当接して剥離台紙に貼着されているので、外観において煩雑な印象を与えることがなく、また、剥離台紙を小型化することができる。

10

20

【0015】

また、第1のラベル部及び2つの第2のラベル部が、剥離台紙の表裏にそれぞれ剥離可能に貼着されている構成としたものにおいては、封緘する箱状物の底板が、上面側と同様に内フラップ部と外フラップ部とから構成されている場合、上面側及び底板側の封緘を1つのラベルユニットで行うことができる。

30

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本発明のラベルユニットの第1の実施の形態を示す図であり、(a)は表面図、(b)は(a)に示したA-A'断面図である。

【図2】図1に示したラベルユニットのラベル部を用いて封緘される箱状物の一例を示す外観斜視図であり、(a)は封緘されていない状態を示す図、(b)は封緘された状態を示す図である。

【図3】図1に示したラベルユニットを用いて図2に示した段ボールを封緘する方法を説明するための図である。

【図4】本発明のラベルユニットの第2の実施の形態を示す図であり、(a)は表面図、(b)は(a)に示したA-A'断面図、(c)は裏面図である。

40

【図5】図4に示したラベルユニットのラベル部を用いて封緘される箱状物の一例を示す外観斜視図であり、(a)は封緘されていない状態を示す図、(b)は封緘された状態を示す図である。

【図6】図4に示したラベルユニットを用いて図5に示した段ボールを封緘する方法を説明するための図である。

【発明を実施するための形態】

【0017】

以下に、本発明の実施の形態について図面を参照して説明する。

【0018】

50

(第1の実施の形態)

図1は、本発明のラベルユニットの第1の実施の形態を示す図であり、(a)は表面図、(b)は(a)に示したA-A'断面図である。

【0019】

本形態は図1に示すように、剥離台紙20上に、第1のラベル部11と2つの第2のラベル部12a, 12bとが剥離可能に貼着されて構成されている。ラベル部11は、帯形状を有し、長辺の長さが第1の長さ L_1 となっている。そして、紙等からなるラベル基材13の一方の面に粘着剤14が塗布されており、この粘着剤14によって剥離台紙20に貼着されている。ラベル部12a, 12bは、それぞれ帯形状を有し、長辺の長さが、第1の長さ L_1 の半分の第2の長さ L_2 となっている。そして、ラベル部11と同様に、ラベル基材13の一方の面に粘着剤14が塗布されており、この粘着剤14によって剥離台紙20に貼着されている。2つのラベル部12a, 12bは、剥離台紙20上にて長辺方向に直列に並んで配置されており、対向する短辺どうしが当接している。ラベル部11とラベル部12a, 12bとは、剥離台紙20上にて互いに並行するように配置されており、2つのラベル部12a, 12bの長辺の長さ L_2 がラベル部11の長辺の長さ L_1 の半分であり、かつ、2つのラベル部12a, 12bの短辺どうしが当接していることから、剥離台紙20上に2つのラベル部11が並行して配置されたような状態となっている。また、剥離台紙20は、紙等からなるシート基材21の一方の面に剥離剤22が塗布されており、この剥離剤22が塗布された面にラベル部11, 12a, 12bが貼着されていることにより、ラベル部11, 12a, 12bが剥離台紙20から剥離可能となっている。

【0020】

このように、剥離台紙20に剥離可能に貼着された3つのラベル部11, 12a, 12bが、ラベル12a, 12bが、ラベル部11に並行し、かつ長辺方向に互いに直列に並ぶように短辺が当接して剥離台紙20上に配置されているので、外観において煩雑な印象を与えることがなく、また、剥離台紙20を小型化することができる。

【0021】

以下に、上記のように構成されたラベルユニット1の使用方法について説明する。

【0022】

まず、図1に示したラベルユニット1のラベル部11, 12a, 12bを用いて封緘される箱状物について説明する。

【0023】

図2は、図1に示したラベルユニット1のラベル部11, 12a, 12bを用いて封緘される箱状物の一例を示す外観斜視図であり、(a)は封緘されていない状態を示す図、(b)は封緘された状態を示す図である。

【0024】

図1に示したラベルユニット1のラベル部11, 12a, 12bを用いて封緘される箱状物としては、図2に示すような段ボール2が挙げられる。

【0025】

図2に示した段ボール2は、互いに接続した4つの側板31a~31dと、4つの側板31a~31dの下縁に接続した底板34と、側板31a, 31bの上縁にてそれぞれ折り畳み可能に接続した2つの外フラップ33a, 33bと、側板31c, 31dの上縁にてそれぞれ折り畳み可能に接続した2つの内フラップ32a, 32bとから構成されており、側板31aと側板31bとが互に対向する1組の対向側板となり、側板31cと側板31dとが互に対向する1組の対向側板となっている。また、外フラップ部33a, 33bは、側板31a, 31bの上縁にてそれぞれ折り畳まれた場合、その先端辺が互いに突き合う形状となっている。

【0026】

上記のように構成された段ボール2は、まず、内フラップ部32a, 32bが、側板31c, 31dの上縁にてそれぞれ折り畳まれ、その後、外フラップ部33a, 33bが、側板31a, 31bの上縁にてそれぞれ折り畳まれ、外フラップ部33a, 33bの先端

辺どうしが突き合わされた状態で封緘されることになる。

【0027】

次に、図1に示したラベルユニット1を用いて図2に示した段ボール2を封緘する方法について説明する。

【0028】

図3は、図1に示したラベルユニット1を用いて図2に示した段ボール2を封緘する方法を説明するための図である。

【0029】

図2に示した段ボール2内に物品を封入し、封緘する場合は、まず、図3(a)に示すように、図2に示した段ボール2の内フラップ部32a、32b及び外フラップ部33a、33bを折り畳まない状態において、段ボール2内に物品3を封入する。

10

【0030】

次に、図3(b)に示すように、内フラップ部32a、32bを、側板31c、31dの上縁にてそれぞれ折り畳む。

【0031】

次に、図3(c)に示すように、外フラップ部33a、33bを、側板31a、31bの上縁にてそれぞれ折り畳む。すると、外フラップ部33a、33bがその先端辺どうしが突き合わされた状態となる。

【0032】

その後、図1に示したラベルユニット1を用いて段ボール2を封緘することになる。まず、ラベルユニット1の剥離台紙20からラベル部11を剥離し、図3(d)に示すように、突き合わされた2つの外フラップ部33a、33bの先端辺に沿うように2つの外フラップ部33a、33bに跨ってラベル部11を貼着する。ここで、図1に示したラベルユニット1は、ラベル部11の長辺の長さ L_1 が、外フラップ部33a、33bの先端辺よりも長くなっており、また、ラベル部12a、12bの長さ L_2 が、内フラップ部32a、32bに接続した側板31c、31dの上縁と同じ長さとなっている。そのため、ラベル部11を外フラップ部33a、33bの先端辺に沿うように2つの外フラップ部33a、33bに跨って貼着すると、ラベル部11は、図3(d)に示すように、外フラップ部33a、33bと内フラップ部32a、32bに接続した側板31c、31dとに跨って貼着される。

20

30

【0033】

次に、ラベルユニット1の剥離台紙20からラベル部12a、12bをそれぞれ剥離し、図3(e)に示すように、ラベル部11が貼着された外フラップ部33a、33bの側辺に沿って、外フラップ部33a、33bと内フラップ部32a、32bに接続した側板31c、31dとに跨ってラベル部12a、12bをそれぞれ貼着する。ここで、上述したように、ラベル部12a、12bの長辺の長さ L_2 が、内フラップ部32a、32bに接続した側板31c、31dの上縁と同じ長さとなっているため、図3(e)に示すように、外フラップ部33a、33bと内フラップ部32a、32bに接続した側板31c、31dとを、側板31c、31dの上縁に沿う領域の全面に渡って、ラベル部12a、12bの端部を折り曲げたり切断したりすることなく、それぞれ1枚のラベル部12a、12bによって貼着することができる。

40

【0034】

上述したように本形態においては、封緘する段ボール2に対して、長辺の長さ L_1 が、外フラップ部33a、33bの先端辺よりも長い帯状形状を有するラベル部11と、長辺の長さ L_2 が、内フラップ部32a、32bに接続した側板31c、31dの上縁と同じ長さである2つのラベル部12a、12bとが剥離台紙20に剥離可能に貼着されているため、ラベル部11を剥離台紙20から剥離し、突き合わされた2つの外フラップ部33a、33bの先端辺に沿うように2つの外フラップ部33a、33bに跨って貼着し、また、ラベル部12a、12bを剥離台紙20から剥離し、ラベル部11が貼着された外フラップ部33a、33bの側辺に沿って、外フラップ部33a、33bの側辺と内フラッ

50

プ部 3 2 a, 3 2 b に接続した側板 3 1 c, 3 1 d とに跨ってそれぞれ貼着するだけで、段ボール 2 を封緘することができ、それにより、はさみ等の切断手段を用いることなく、かつ、外観が悪くなることなく段ボール 2 を封緘することができる。

【0035】

(第 2 の実施の形態)

図 4 は、本発明のラベルユニットの第 2 の実施の形態を示す図であり、(a) は表面図、(b) は (a) に示した A-A' 断面図、(c) は裏面図である。

【0036】

本形態は図 4 に示すように、図 1 に示したものに対して、剥離台紙 1 2 0 の裏面にも第 1 のラベル部 1 1 5 と、2 枚の第 2 のラベル部 1 1 6 a, 1 1 6 b とが剥離可能に貼着されている点のみが異なるものである。ラベル部 1 1 5 は、剥離台紙 1 2 0 の表面に貼着されたラベル部 1 1 1 と同一の構成及び大きさを有し、また、ラベル部 1 1 6 a, 1 1 6 b は、剥離台紙 1 2 0 の表面に貼着されたラベル部 1 1 2 a, 1 1 2 b と同一の構成及び大きさを有し、剥離台紙 1 2 0 を介してラベル部 1 1 1 に対向する領域にラベル部 1 1 6 a, 1 1 6 b が貼着されるとともに、剥離台紙 1 2 0 を介してラベル部 1 1 2 a, 1 1 2 b に対向する領域にラベル部 1 1 5 が貼着されている。また、剥離台紙 1 2 0 は、シート基材 1 2 1 の表裏にそれぞれ剥離剤 1 2 2 が塗布されている。なお、剥離台紙 1 2 0 の表面に貼着されたラベル部 1 1 1 及びラベル部 1 1 2 a, 1 1 2 b と、剥離台紙 1 2 0 の裏面に貼着されたラベル部 1 1 5 及びラベル部 1 1 6 a, 1 1 6 b との位置関係は、これに限らず、剥離台紙 1 2 0 を介してラベル部 1 1 1 に対向する領域にラベル部 1 1 5 が貼着されるときとも、剥離台紙 1 2 0 を介してラベル部 1 1 2 a, 1 1 2 b に対向する領域にラベル部 1 1 6 a, 1 1 6 b が貼着されていてもよい。

【0037】

以下に、上記のように構成されたラベルユニット 1 0 1 の使用方法について説明する。

【0038】

まず、図 4 に示したラベルユニット 1 0 1 のラベル部 1 1 1, 1 1 2 a, 1 1 2 b, 1 1 5, 1 1 6 a, 1 1 6 b を用いて封緘される箱状物について説明する。

【0039】

図 5 は、図 4 に示したラベルユニット 1 0 1 のラベル部 1 1 1, 1 1 2 a, 1 1 2 b, 1 1 5, 1 1 6 a, 1 1 6 b を用いて封緘される箱状物の一例を示す外観斜視図であり、(a) は封緘されていない状態を示す図、(b) は封緘された状態を示す図である。

【0040】

図 4 に示したラベルユニット 1 0 1 のラベル部 1 1 1, 1 1 2 a, 1 1 2 b, 1 1 5, 1 1 6 a, 1 1 6 b を用いて封緘される箱状物としては、図 5 に示すような段ボール 1 0 2 が挙げられる。

【0041】

図 5 に示した段ボール 1 0 2 は、図 2 に示したものに対して、底板 1 3 4 が、段ボール 1 0 2 の上面側と同様に、2 つの内フラップ部 1 3 2 c, 1 3 2 d と、2 つの外フラップ部 1 3 3 c, 1 3 3 d とから構成されている点のみが異なるものである。

【0042】

上記のように構成された段ボール 1 0 2 は、まず、底板 1 3 4 を構成する内フラップ部 1 3 2 c, 1 3 2 d が、側板 1 3 1 c, 1 3 1 d の下縁にてそれぞれ折り畳まれ、次に、底板 1 3 4 を構成する外フラップ部 1 3 3 c, 1 3 3 d が、側板 1 3 1 a, 1 3 1 b の下縁にてそれぞれ折り畳まれ、外フラップ部 1 3 3 c, 1 3 3 d の先端辺どうしが突き合わされた状態で底板側が封緘される。その後、内フラップ部 1 3 2 a, 1 3 2 b が、側板 1 3 1 c, 1 3 1 d の上縁にてそれぞれ折り畳まれ、また、外フラップ部 1 3 3 a, 1 3 3 b が、側板 1 3 1 a, 1 3 1 b の上縁にてそれぞれ折り畳まれ、外フラップ部 1 3 3 a, 1 3 3 b の先端辺どうしが突き合わされた状態で封緘されることになる。

【0043】

次に、図 4 に示したラベルユニット 1 0 1 を用いて図 5 に示した段ボール 1 0 2 を封緘

10

20

30

40

50

する方法について説明する。

【0044】

図6は、図4に示したラベルユニット101を用いて図5に示した段ボール102を封緘する方法を説明するための図である。

【0045】

図5に示した段ボール102内に物品を封入し、封緘する場合は、まず、図6(a)に示すように、底板134を構成する内フラップ部132c、132dを、側板131c、131dの下縁にてそれぞれ折り畳む。

【0046】

次に、図6(b)に示すように、底板134を構成する外フラップ部133c、133dを、側板131a、131bの下縁にてそれぞれ折り畳む。すると、外フラップ部133c、133dがその先端辺どうしが突き合わされた状態となる。

【0047】

そして、図4に示したラベルユニット101を用いて段ボール102の底板134側を封緘することになる。まず、ラベルユニット101の剥離台紙120からラベル部111を剥離し、図4(c)に示すように、突き合わされた2つの外フラップ部133c、133dの先端辺に沿うように2つの外フラップ部133c、133dに跨ってラベル部111を貼着する。ここで、図4に示したラベルユニット101は、ラベル部111の長辺の長さ L_1 が、外フラップ部133c、133dの先端辺よりも長くなっており、また、ラベル部112a、112bの長さ L_2 が、内フラップ部132c、132dに接続した側板131c、131dの上縁と同じ長さとなっている。そのため、ラベル部111を外フラップ部133c、133dの先端辺に沿うように2つの外フラップ部133c、133dに跨って貼着すると、ラベル部111は、図6(c)に示すように、外フラップ部133c、133dと内フラップ部132c、132dに接続した側板131c、131dとに跨って貼着される。

【0048】

次に、ラベルユニット101の剥離台紙120からラベル部112a、112bをそれぞれ剥離し、図6(d)に示すように、ラベル部111が貼着された外フラップ部133c、133dの側辺に沿って、外フラップ部133c、133dと内フラップ部132c、132dに接続した側板131c、131dとに跨ってラベル部112a、112bをそれぞれ貼着する。ここで、上述したように、ラベル部112a、112bの長辺の長さ L_2 が、内フラップ部132c、132dに接続した側板131c、131dの上縁と同じ長さとなっているため、図6(d)に示すように、外フラップ部133c、133dと内フラップ部132c、132dに接続した側板131c、131dとを、側板131c、131dの下縁に沿う領域の全面に渡って、ラベル部112a、112bの端部を折り曲げたり切断したりすることなく、それぞれ1枚のラベル部112a、112bによって貼着することができる。

【0049】

このようにして、段ボール102の底板134側が封緘されることになる。

【0050】

そして、段ボール102の内フラップ部132a、132b及び外フラップ部133a、133bを折り畳まない状態において、段ボール102内に物品103を封入し、図6(e)に示すように、内フラップ部132a、132bを、側板131c、131dの上縁にてそれぞれ折り畳む。

【0051】

次に、図6(f)に示すように、外フラップ部133a、133bを、側板131a、131bの上縁にてそれぞれ折り畳む。すると、外フラップ部133a、133bがその先端辺どうしが突き合わされた状態となる。

【0052】

その後、図4に示したラベルユニット101を用いて段ボール102の上面側を封緘す

10

20

30

40

50

ることになる。まず、ラベルユニット101の剥離台紙120からラベル部115を剥離し、図6(g)に示すように、突き合わされた2つの外フラップ部133a, 133bの先端辺に沿うように2つの外フラップ部133a, 133bに跨ってラベル部115を貼着する。ここで、図4に示したラベルユニット101は、ラベル部115の長辺の長さがラベル部111の長辺の長さ L_1 と同様に、外フラップ部133a, 133bの先端辺よりも長くなっており、また、ラベル部116a, 116bの長さがラベル部112a, 112bの長さ L_2 と同様に、内フラップ部132a, 132bに接続した側板131c, 131dの上縁と同じ長さとなっている。そのため、ラベル部115を外フラップ部133a, 133bの先端辺に沿うように2つの外フラップ部133a, 133bに跨って貼着すると、ラベル部115は、図6(g)に示すように、外フラップ部133a, 133bと内フラップ部132a, 132bに接続した側板131c, 131dとに跨って貼着される。

10

【0053】

次に、ラベルユニット101の剥離台紙120からラベル部116a, 116bをそれぞれ剥離し、図6(h)に示すように、ラベル部115が貼着された外フラップ部133a, 133bの側辺に沿って、外フラップ部133a, 133bと内フラップ部132a, 132bに接続した側板131c, 131dとに跨ってラベル部116a, 116bをそれぞれ貼着する。ここで、上述したように、ラベル部116a, 116bの長辺の長さがラベル部112a, 112bの長さ L_2 と同様に、内フラップ部132a, 132bに接続した側板131c, 131dの上縁と同じ長さとなっているため、図6(h)に示すように、外フラップ部133a, 133bと内フラップ部132a, 132bに接続した側板131c, 131dとを、側板131c, 131dの上縁に沿う領域の全面に渡って、ラベル部116a, 116bの端部を折り曲げたり切断したりすることなく、それぞれ1枚のラベル部116a, 116bによって貼着することができる。

20

【0054】

上述したように本形態においては、封緘する段ボール102に対して、長辺の長さ L_1 が、外フラップ部133a~133dの先端辺よりも長い帯状形状を有するラベル部111, 115と、長辺の長さ L_2 が、内フラップ部132a~132dに接続した側板131c, 131dの上縁及び下縁と同じ長さである2つのラベル部112a, 112b, 116a, 116bとが剥離台紙120に剥離可能に貼着されているため、ラベル部111を剥離台紙120から剥離し、突き合わされた2つの外フラップ部133c, 133dの先端辺に沿うように2つの外フラップ部133c, 133dに跨って貼着し、また、ラベル部112a, 112bを剥離台紙120から剥離し、ラベル部111が貼着された外フラップ部133c, 133dの側辺に沿って、外フラップ部133c, 133dと内フラップ部132c, 132dに接続した側板131c, 131dとに跨ってそれぞれ貼着し、また、ラベル部115を剥離台紙120から剥離し、突き合わされた2つの外フラップ部133a, 133bの先端辺に沿うように2つの外フラップ部133a, 133bに跨って貼着し、また、ラベル部116a, 116bを剥離台紙120から剥離し、ラベル部115が貼着された外フラップ部133a, 133bの側辺に沿って、外フラップ部133a, 133bと内フラップ部132a, 132bに接続した側板131c, 131dとに跨ってそれぞれ貼着するだけで段ボール102を封緘することができ、それにより、はさみ等の切断手段を用いることなく、かつ、外観が悪くなることなく段ボール102を封緘することができる。

30

40

【0055】

また、封緘する段ボール102の底板134が、図5に示したもののよう、上面側と同様に、2つの内フラップ部132c, 132dと、2つの外フラップ部133c, 133dとから構成されている場合、上面側及び底板側の封緘を1つのラベルユニット101で行うことができる。

【0056】

なお、上述した実施の形態においては、本発明のラベルユニットによって封緘される箱

50

状物として段ボール 2, 102 を例に挙げて説明したが、本発明のラベルユニットによって封緘される箱状物はこれに限らず、2組の対向側板と、2組の対向側板の下縁に接続した底板と、2組の対向側板のうち一方の組の対向側板の上縁にて折り畳み可能に接続した2つの内フラップ部と、2組の対向側板のうち他方の組の対向側板の上縁にて折り畳み可能に接続し、対向側板の上縁にて折り畳まれた場合に先端辺が互いに突き合う2つの外フラップ部とを有し、内フラップ部が対向側板の上縁にて折り畳まれた後、外フラップ部が対向側板の上縁にて折り畳まれて先端辺どうしが突き合わされた状態で封緘されるものであればよい。

【符号の説明】

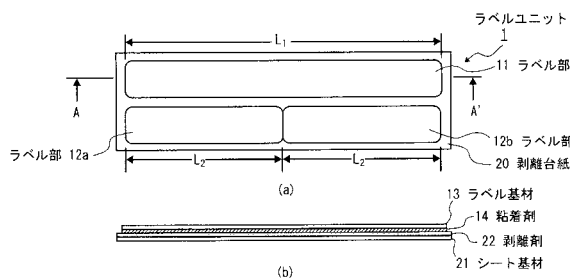
【0057】

- | | | |
|--|---------|--|
| 1, 101 | ラベルユニット | |
| 2, 102 | 段ボール | |
| 3, 103 | | |
| 11, 12a, 12b, 111, 112a, 112b, 115, 116a, 116b | ラベル部 | |
| 13, 113 | ラベル基材 | |
| 14, 114 | 粘着剤 | |
| 20, 120 | 剥離台紙 | |
| 21, 121 | シート基材 | |
| 22, 122 | 剥離剤 | |
| 31a~31d, 131a~131d | 側板 | |
| 32a, 32b, 132a~132d | 内フラップ部 | |
| 33a, 33b, 133a~133d | 外フラップ部 | |
| 34, 134 | 底板 | |

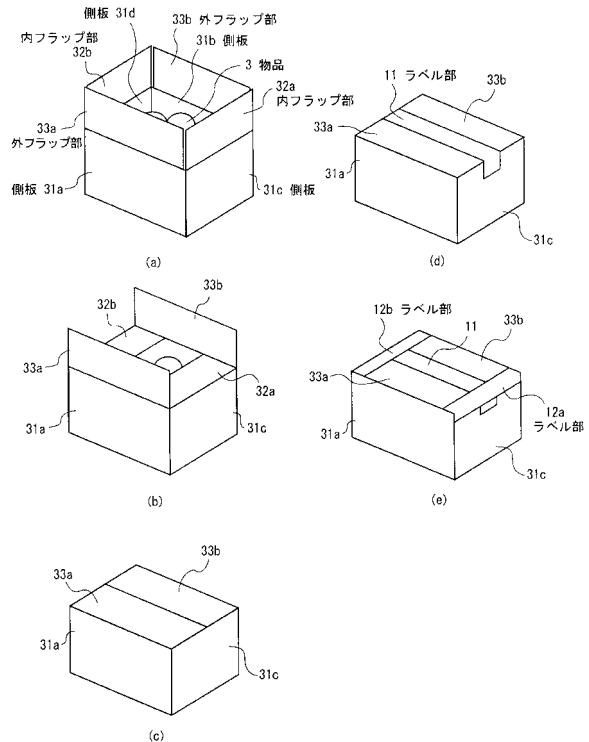
10

20

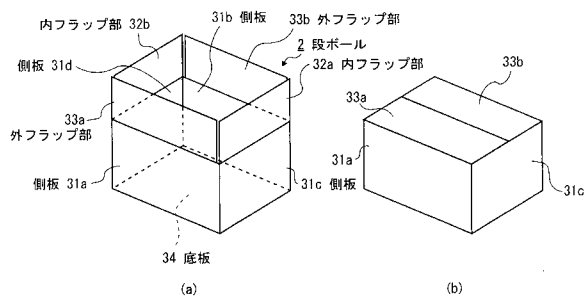
【図1】



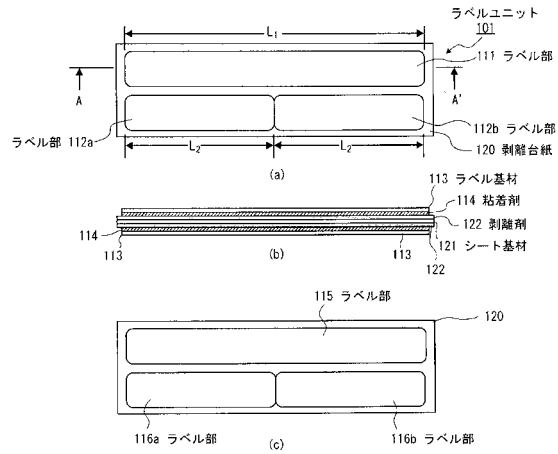
【図3】



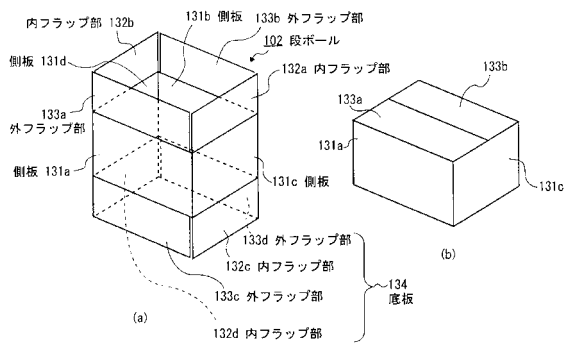
【図2】



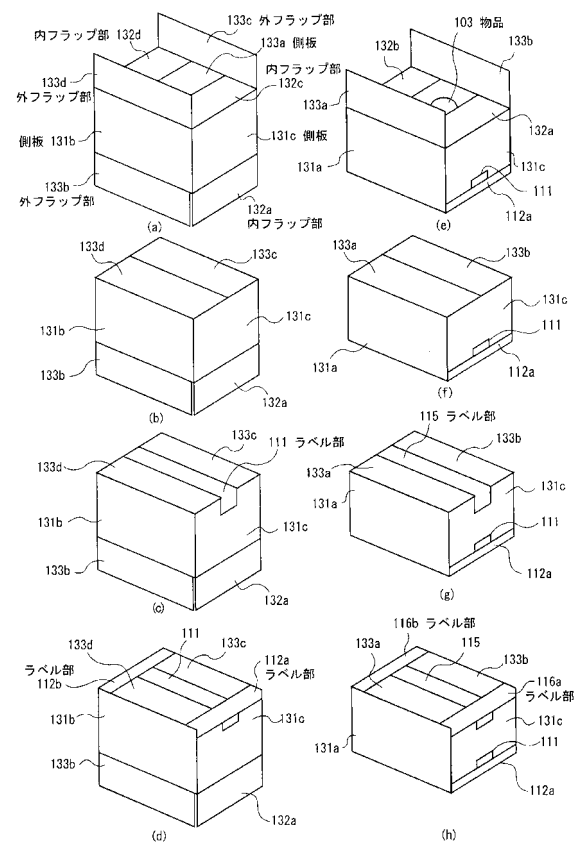
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭61-205925 (JP, U)
実開平04-059875 (JP, U)
特開2004-085996 (JP, A)
実開昭61-114476 (JP, U)
実開平05-026452 (JP, U)
特開2007-206446 (JP, A)
特開2004-045944 (JP, A)
特開2006-330072 (JP, A)
実開昭60-043554 (JP, U)
特開平08-016105 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D 5/00
G09F 3/00